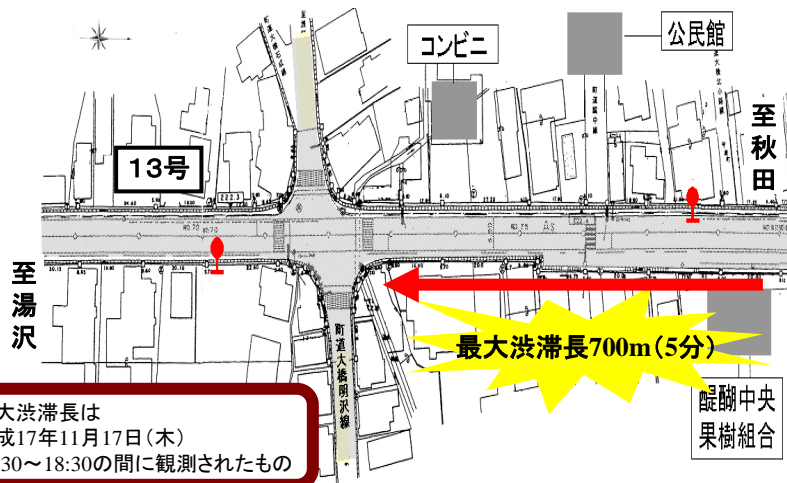


大橋交差点の渋滞状況

整備後

背景 ～慢性的な渋滞が発生する大橋交差点～

- 慢性的に上り方向の渋滞が発生 (平成9年第3次渋滞対策ポイントに指定)
- 平成17年の夕ピーク時には最大渋滞長L=700m、最大通過時間t=5分
- 歩道の幅員も十分ではなく、冬期は歩道脇の堆雪によって通行に支障



【整備内容】

- 右折レーン設置
- 食い違い交差の解消
- 高機能舗装
- バス停車帯整備
- 歩道部の拡幅
- 冬期対策 (流雪溝)

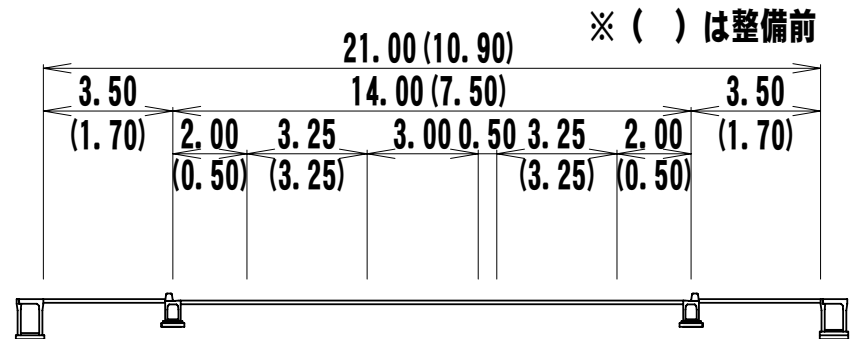


国道13号整備断面図

整備計画策定 ～交差点改良計画の合意形成～

「大橋交差点渋滞を考える懇談会」による対策検討

- 主要幹線道路における大規模な交差点改良となることから、学校・警察等の関係者に加え、利害関係に係わる地域住民による「大橋交差点渋滞を考える懇談会」を開催し、対策の必要性、あり方を検討し対策案を決定



改良前 夏期



改良前 冬期



改良後 夏期



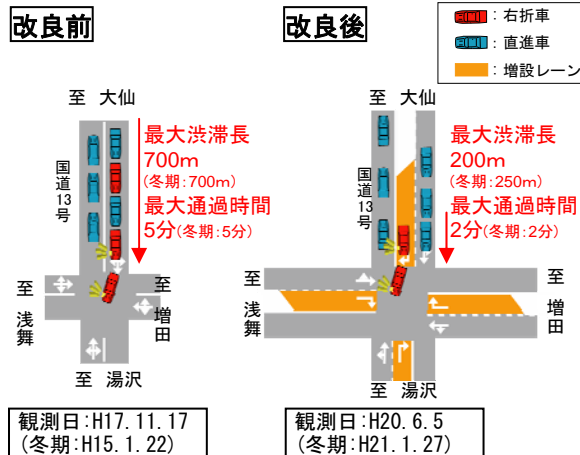
改良後 冬期



大橋交差点改良 整備効果

① 渋滞の変化

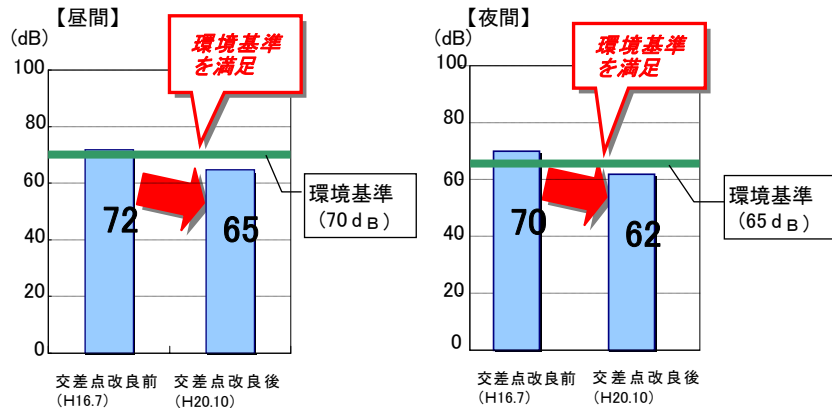
- 交差点改良後、**最大渋滞長が1/3以下に減少(700m→200m)**
- 交差点の**最大通過時間も半分以下(5分→2分)**に短縮



▲ タピーク時(16:30~18:30)の渋滞長の変化

② 沿道騒音の変化

- 大橋交差点の沿道の騒音は、改良前は昼間・夜間ともに環境基準を超過していたが、**改良後、環境基準を満足**



◆ 渋滞解消による経済効果

年間約1.7億円



◆ 渋滞解消によるCO₂削減

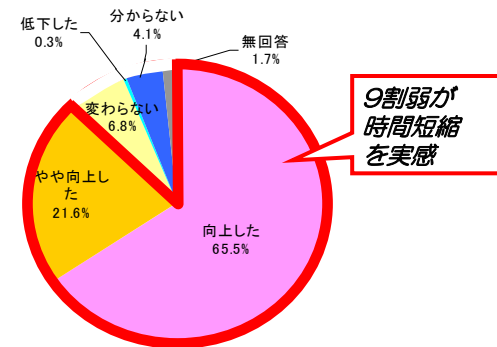
年間約165 t

この量を吸収するのに必要となる森林面積 **約30ha**に相当



② 走行快適性の变化

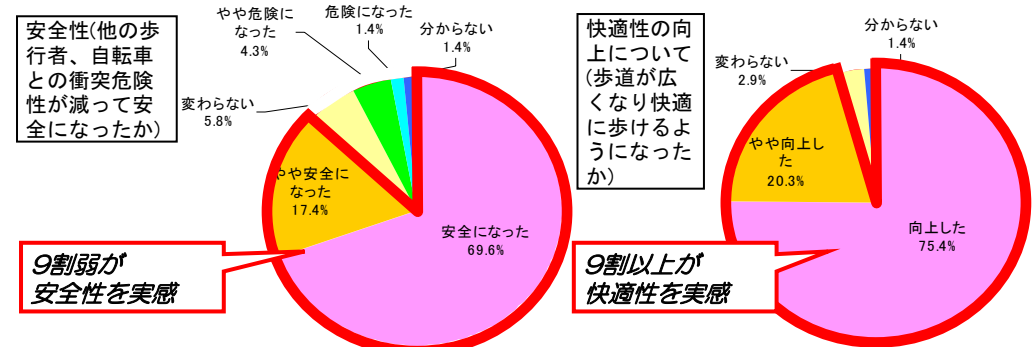
交差点の通過に要する時間について、国道13号沿線住民、道路利用者の**9割弱**が時間短縮を実感



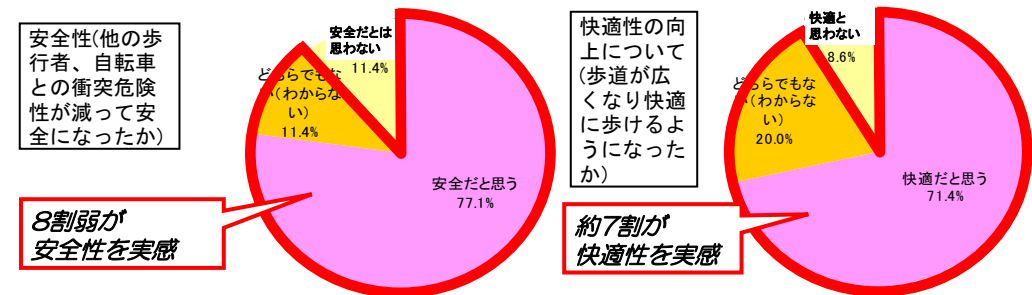
▶ 「交差点の通過に要する時間」の変化(対象: 国道13号沿線住民、道路利用者 N=296)

③ 歩行の安全性・快適性の变化(歩道通行時)

- 国道13号沿線の地域住民の**9割弱**、通学路利用児童の**8割弱**が歩道通行時の**安全性**を実感
- 国道13号沿線の地域住民の**9割以上**、通学路利用児童の**約7割**が歩道通行時の**快適性**を実感



▲ 歩道通行時の安全性・快適性の变化(対象: 国道13号沿線地域住民; N=69)



▲ 歩道通行時の安全性・快適性について(対象: 通学路利用児童; N=35)

『大橋交差点渋滞を考える懇談会』開催 ～改良後の状況について意見交換を実施しました～

事業完了後、約1年が経過したことから、5月19日(火)に改良前の問題の改善状況や更なる追加対策の必要性等について意見交換を行いました。

大橋交差点渋滞を考える懇談会

横手市平鹿区長
横手市平鹿町在住者 2名
横手警察署交通課交通規制係長
醍醐小学校 校長
醍醐小学校 PTA会長
秋田県トラック協会雄平支部長
羽後交通(株)横手自動車営業所長
秋田県平鹿地域振興局企画道路課長
湯沢河川国道事務所副所長
湯沢国道維持出張所長

【主な意見】

- : 湯沢～横手間の通勤時に大橋交差点を通っているが、特に冬期間は到着時間が読めなかった。 **交差点改良後は到着時間が読める**ようになった。
 - : 醍醐小学校全児童182名(H20現在)のうち約7割の児童が大橋交差点、醍醐横断歩道橋を**安心して通学**しています。
 - : 歩道は朝1回しか除雪しないので、お年寄りや除雪されている**車道を歩いている方もいて大変危険**。日中の降雪で歩道が凸凹になったままで歩きにくい状態となっている。
- 回答: 日中の降雪量の大小にもよりますが、**下校時前の歩道除雪についても検討**してまいりたい。
- : 交差点改良により車道、路肩が広がったことにより、**乱横断する人が減って歩行者の安全性が高まっている**。
 - : 工事前はバスが遅れがちであったが、工事後は**バス時刻の遅れがなくなった**。バス停車帯も整備され**乗客の安全な乗降**ができています。

